

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(179企業)をまとめた

サービス業

発行・長崎県商工会連合会
長崎市桜町4-1
長崎商工会館8階
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

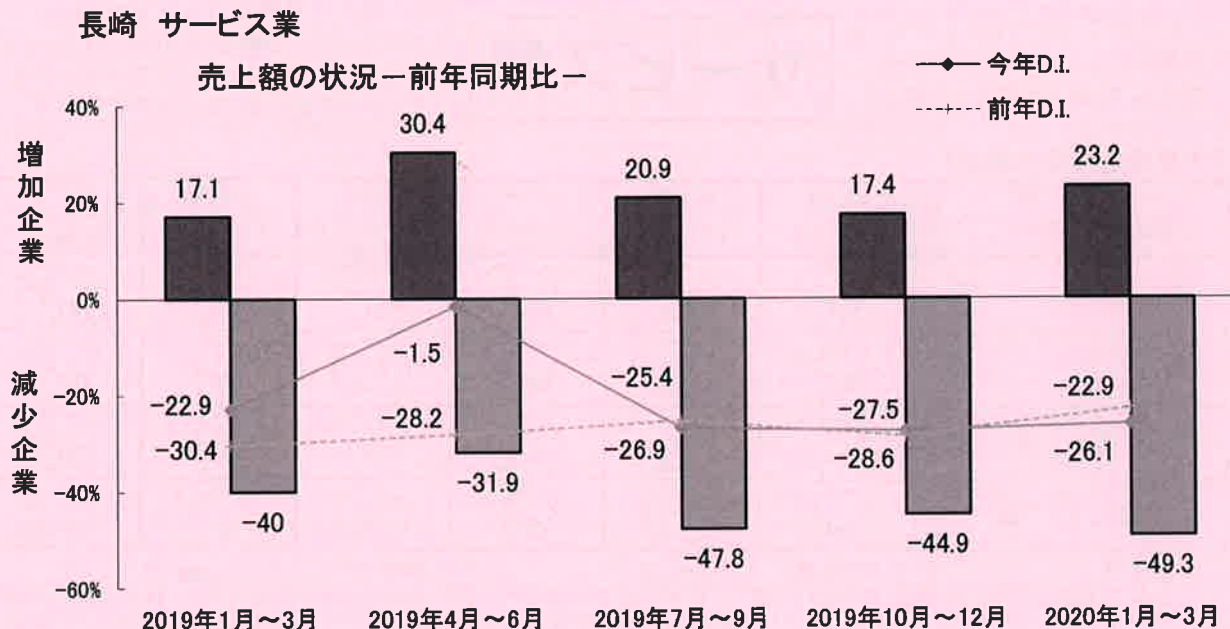
期 主要項目	2019年 1月～3月	2019年 4月～6月	2019年 7月～9月	2019年 10月～12月	2020年 1月～3月	2020年 4月～6月 (見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						

晴 D・I 50.1～100
 晴時々曇 D・I 20.1～50
 曇 D・I 20～△20
 曇時々雨 D・I △20.1～△50
 雨 D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

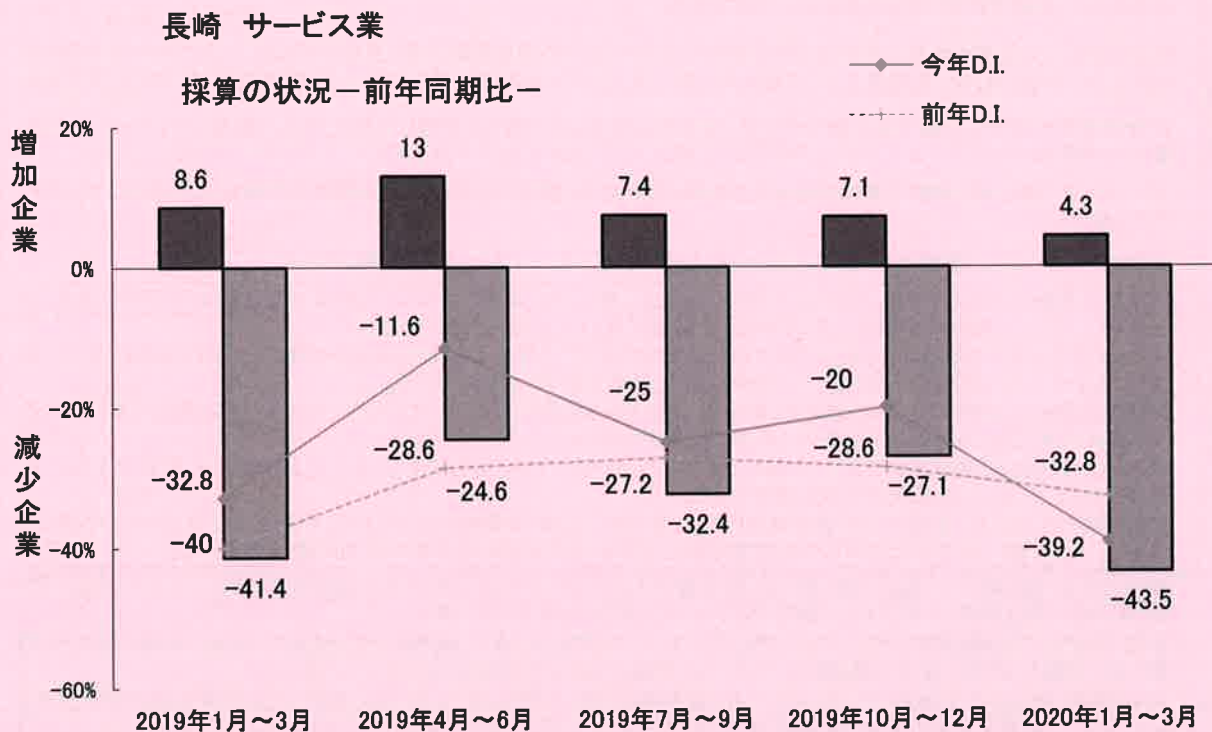
製造業	<ul style="list-style-type: none"> 消費増税の影響で売上が落ち、また新型コロナウイルスの影響でイベントが中止になる事が多く、売上の減少になっている。 新型コロナウイルスの影響により、イベント等の中止があったりして需要が下がってきている。新型コロナウイルスの件が片付かないと先が見えてこない。引合いは少し増えているのに今後が見えない。 新型コロナウイルスの影響により、卸売りの直売所、道の駅の客数、売上が減少している。 製品の引き合いは活発なので、販売形態をより能動的な方法で少しずつ取入れることで 売上向上に繋がるのは確実だと考える。製品製造に無理をきたさない程度が条件である。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 今期に関しては、前年前期と比較すると売上額も増加し好転している状況ではあるが、外注費やその他諸経費の支払いを考えると、来期の状況はあまり変化しない予定である。 郡部においても住宅の新築工事が目立つ。特にハウスメーカーの建設現場が多く見受けられる。一方で古い家の空き家も目立つ。そのような中、地場業者として将来の活路を見出していかなければならない。一層の見聞と努力が必要である。 消費増税や韓国人の観光客の減少などで、全体的に冷え込んできている感じである。加えて新型コロナウイルスの影響で住宅機器の中国メーカーが部品の製造ができないので、これから半年程、住宅の工事は無いようだ。 オリンピックで春以降、建設工事は中断するとは聞いていたが、新型コロナウイルスの影響が想像以上に出るのではないかと心配だ。 新型コロナウイルスの影響で、中国の工場から材料が入らず、施工できない状況が続いている
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の高齢化が進んでいる。従業員の確保もだんだん難しくなってきた。それに人件費の増加も加わり経費も上昇している。そして、仕入商品の単価の上昇もじわじわと経営に重くのしかかっている。 新型コロナウイルスの影響により人々の動きが制限されて来ている様子が伺える。レジャー等に出かけてもらえないと、当店のようなガソリンスタンドにも影響があるので、この先の売上減少も心配している。 消費増税後の消費冷え込みに加えて、新型コロナウイルス感染症が広がっている中、マスクや消毒用品を買い求めるお客様が増えても、商品が入荷困難のため売上に繋がらない。 依然として需要の停滞は続いており、今後も上昇することは望めないと思う。ただ同業者が少なくなった影響で客数が若干増えたことで、どうにか業況の不変を維持できた。 消費増税から数か月、金額的には幾分増加したが、数量的には減少傾向になっており、節約志向が高まっている様に思われる。又、今期は新型コロナウイルスの影響もあり、まだ5～6月以降も低水準の傾向が続くと思われる。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 数字で見ると余り変わってないように思うが、消費税が上がっているため、やはり売上は落ちているのだと思う。客足も減少傾向にあり、今は新型コロナウイルス騒動でどうなるか不安であり怖い。 新型コロナウイルス感染症のため、いろいろなセレモニーが中止となる中、暖冬ということもあり、春先の衣替え時の利用も望めないと思う。家計の支出の重要度も、クリーニングはどんどん下のほうになっていると思う。 前年同期に比べて売上は伸びてはいるものの、資金繰りは決して良くはない現状で、人件費以外の経費見直しをし、コツコツ節約に励み、無駄を省く努力を続けていかなければと思う。 ランチは堅調に推移。夜の宴会は若干減少。3月からの歓送迎会シーズン突入ですが、新型コロナウイルスの影響が始め、キャンセルが相次いでいる。従業員の健康にも気を配りながら頑張りたい。 暖冬の影響で、春の繁忙期が例年より落ち込むのではないかと心配していたところに、新型コロナウイルスの件が重なり、本当に不安でしかない。更に景気が落ち込む事が考えられる。今は無駄を見直し、やるべき事を一生懸命やるのみである。 昨年10月からの軽減税率導入でキャッシュレスが増加しているが、客数増には繋がらず、手数料増加による利益の圧縮が6月以降に出そうである。更に利用者のニーズに対応できておらず、課題が多い。景気の落ち込みも気になる。

①【サービス業】売上の動向



今期、売上が「増加した」と答えた企業は23.2%と、前期の17.4%から5.8ポイント増加した。「減少した」と答えた企業も49.3%と、前期の44.9%から4.4ポイント増加した。このため、今期D・I値は△26.1と、前期の△27.5から1.4ポイント改善した。「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は17.4%、減少すると予測した企業は46.4%で、これにより来期のD・I値は△29.0と今期の△26.1より2.9ポイントの悪化を予測している。

②【サービス業】採算の動向



今期、採算が「好転した」と答えた企業は4.3%で、前期の7.1%から2.8ポイント減少した。また、「悪化した」と答えた企業も43.5%と前期の27.1%から16.4ポイント増加した。このため今期D・I値は△39.2と、前期の△20.0から19.2ポイント悪化した。「来期の見通し」では、好転すると予測した企業は4.5%、悪化すると予測した企業は37.3%であった。これにより、来期D・I値は△32.8と、今期の△39.2から6.4ポイントの改善を予測している。

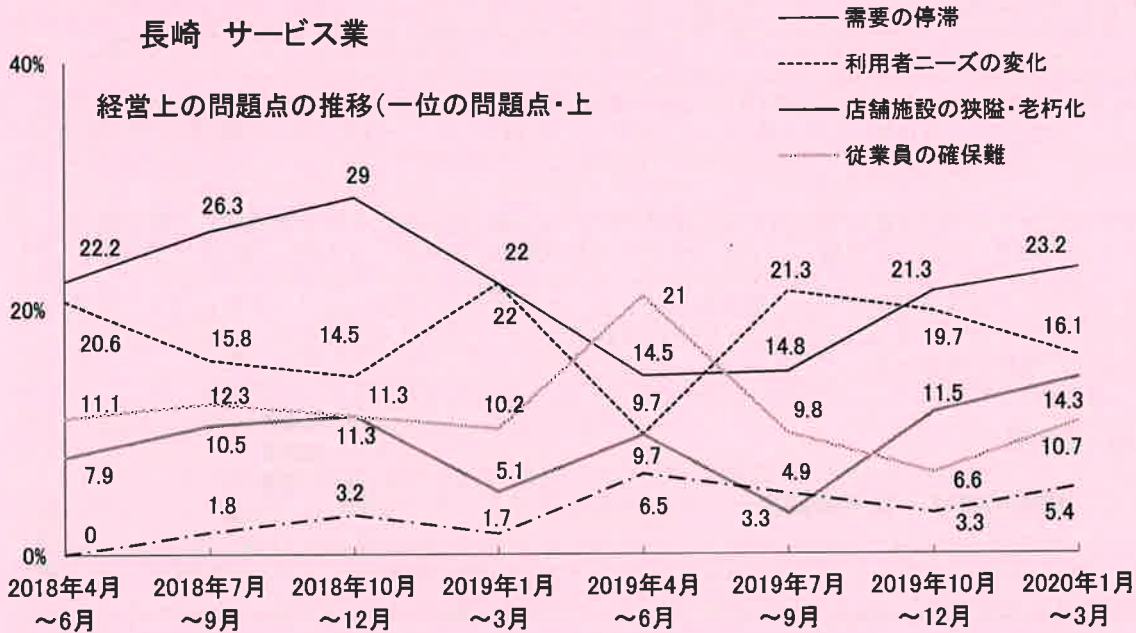
③【サービス業】新規設備投資の状況

※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して い 計画 る	土 地	建 物	サ ー ビ ス	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	実 施 し て い 計 画 い
今 期 (2020年1~3月)	11.6	0.0	12.5	37.5	0.0	12.5	25.0	0.0	12.5	88.4
来 期 (2020年4~6月)	13.0	0.0	0.0	44.4	11.1	22.2	33.3	0.0	0.0	87.0

今期設備投資を行った企業は11.6%で、前期設備投資を行った企業(7.2%)を上回った。
来期は13.0%が設備投資を計画している。

④【サービス業】経営上の問題点



今期の経営上の問題点は、第1位が「需要の停滞」で23.2%、第2位が「利用者ニーズの変化」で16.1%、第3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」で14.3%となっており、第4位が「従業員の確保難」で10.7%、第5位が「大企業の進出による競争の激化」5.4%となっており、需要が停滞する中で、利用者のニーズへの対応に苦慮していることがうかがえる。

⑤【サービス業】来期の見通し

売上(収入)額			採 算			資 金 繰 り			業 況		
2019年 10~12月期	2020年 1~3月期	2020年 4~6月期	2019年 10~12月期	2020年 1~3月期	2020年 4~6月期	2019年 10~12月期	2020年 1~3月期	2020年 4~6月期	2019年 10~12月期	2020年 1~3月期	2020年 4~6月期
△ 27.5	△ 26.1	△ 29.0	△ 20.0	△ 39.2	△ 32.8	△ 20.3	△ 22.1	△ 20.3	△ 16.0	△ 27.2	△ 42.4
傾向	→	→	傾向	→	→	傾向	→	→	傾向	→	→

(注) → 増加・好転 → 不変 → 減少・悪化を示す

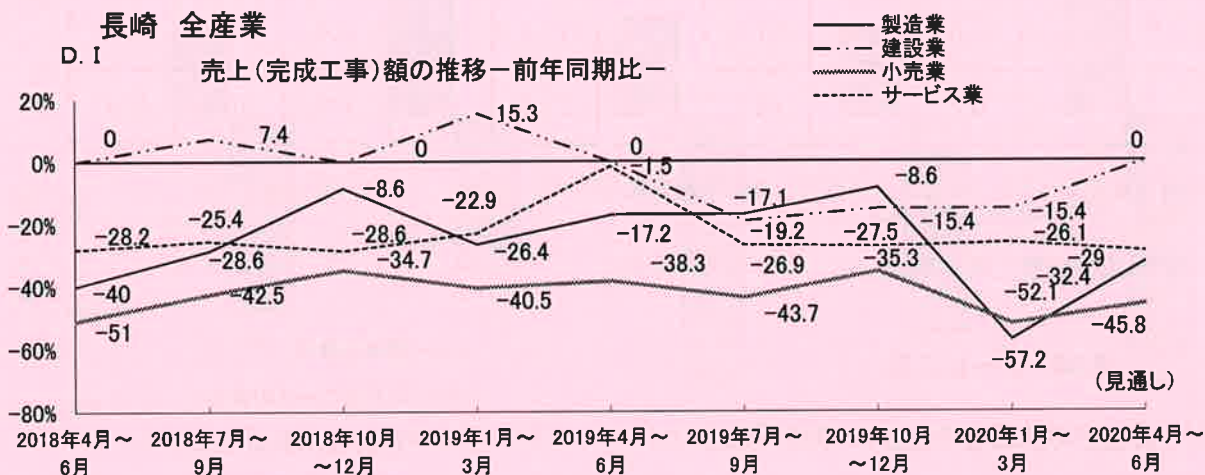
来期の見通しは、「売上(収入)額」「業況」は悪化を示しているが、「採算」「資金繰り」の項目では改善を示している。

調査対象企業のコメントでは、消費税増税に伴う購買力の低迷、コロナウイルスの影響による来客の減少、需要の停滞、人件費の増加、従業員の確保難などの多くの不安を訴える声が多く、今後も厳しい状況は続いていくものと推察される。

【売上】

今期改善を示した業種は、「サービス業」（1.4ポイントの改善）で、悪化を示したのが「製造業」（48.6ポイントの悪化）と「小売業」（16.8ポイントの悪化）、「建設業」は前期と同率（15.4ポイント）であった。

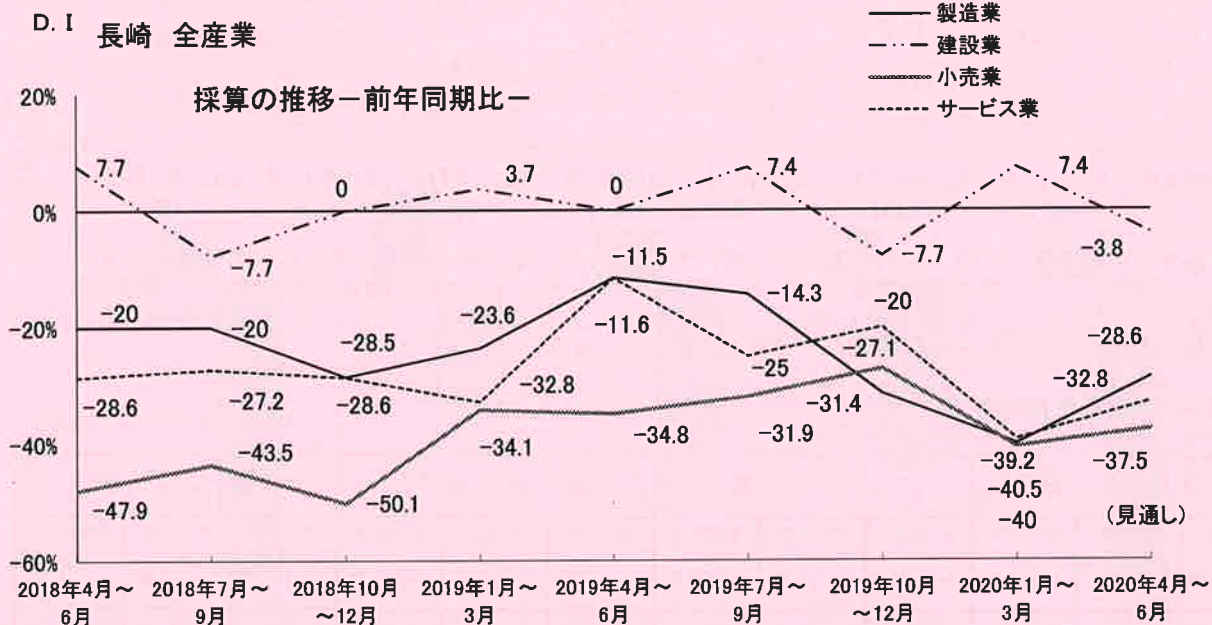
来期の見通しでは、「製造業」（24.8ポイントの改善）、「建設業」（15.4ポイントの改善）、「小売業」（6.3ポイントの改善）で、「サービス業」（2.9ポイントの悪化）を示している。



【採算】

今期改善を示した業種は、「建設業」（15.1ポイントの改善）で、悪化を示したのは、「製造業」（8.6ポイントの悪化）、「小売業」（13.4ポイントの悪化）、「サービス業」（19.2ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは改善を示したのは、「製造業」（11.4ポイントの改善）、「小売業」（3.0ポイントの改善）、「サービス業」（6.4ポイントの改善）であり、悪化を示したのは、「建設業」（11.2ポイントの悪化）であった。



本レポートの中で「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。
 例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、
 減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。
 マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。